2024全日本ARDF競技大会in高崎 盛大に開催

クラシック競技3.5MHz帯部門　スタート!!

10月12日（土）・13日（日），群馬県高崎市牛伏ドリームセンター周辺でJARL主催第32回2024全日本ARDF競技大会が開催されました。5年ぶりとなった2日間の全日本大会に，選手136名が集まり，コロナ禍の中断から再開後2年目の本大会に賑やかさが戻ってきました。

▲開会式の模様

競技地域は山あいの耕作地と集落が連なる田園地帯で，豊かな自然に恵まれた牛伏山自然公園です。集合場所の赤谷公園には遊歩道が整備され，四季折々の自然を楽しめます。牛伏山（標高491m）の山頂手前には城を模した「牛伏山展望台」があり，上毛三山や関東平野を望むことができます。麓の各所から「城」を見ることができ，道に迷った選手には現在地把握を修正するのに絶好の目標となりました。

▲行き交う選手たち

【初日：10月12日（クラシック競技3.5MHz帯部門）】

▲TX1 チェック！

初日のクラシック競技3.5MHz帯部門では，ドリームセンター屋内ゲートボール場をスタート地点として，このセンターよりも西側かつ上信越自動車道よりも南側（牛伏山側）にTXを配置し，赤谷公園がゴール地点とされました。初日ということで距離は多少短い設定で，スタートからのTXとTXの距離は規定を満足するものとなっていました。回る順番の選択を誤るとすんなりとは行けないようにと考えられました。一番先にTX2に行けるようにとスタート近くに設置，その後は反時計回りに進むのを最適探査順と想定しました。探査開始地点から西に進み，少し坂を下ったところにTX2方向に最短となる小道があり，しっかりと測向と地図を読めた選手は行けたのではないでしょうか。

全てのTXが西側に配置されていたので，探査開始地点を過ぎて東に向かうことは想定外でしたが，東を選択した選手が結構いました。途中からTXに行くことができる道は無く，高速道路近くまで行った選手も数名いたようで，最初のTXまででも2km以上走った

▲慎重に位置を確かめ走る

ことになります。最初の分岐点で東西への選択が探査に大きく影響しました。

【2日目の朝・開会式】

▲選手宣誓をする（左側から）関東の中学生青木選手と小俣選手。最高齢選手JA5UVT詫間さん。右側は森田JARL会長

2日目の競技前にゲートボール場で開会式が行われ，来賓の日本アマチュア無線機器工業会（JAIA）杉本仁事務局長，一般財団法人日本アマチュア無線振興協会（JARD）伊藤純管理部長，JA1LXG小渕優子衆議院議員事務所斉藤隆広所長を迎えました。小渕議員は，お父様（故小渕恵三元首相）がアマチュア無線と深く関わっていて，ご自身も意思を引き継いで開局していることが紹介され，「アマチュア無線の啓発と普及に力を尽くしたい」との同議員の祝辞が代読されました。

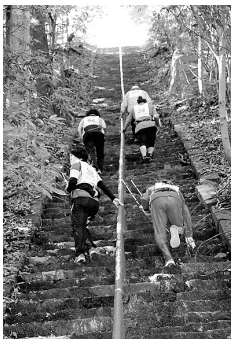
地方本部対抗優勝杯返還は当該地方（昨年の優勝は関東）の選手代表が行うことが多いのですが，司会を務めていたJF1NEF森野冨士彦大会実行委員長（関東地方本部長）が，場内の提案もありサプライズでの返還となりました。選手宣誓は関東の中学生選手小俣湊さん（茗溪学園）と青木錬さん（同）の2名に最高齢選手のJA5UVT詫間哲さんを加えた3名で行われました。

【2日目：10月13日（クラシック競技144MHz帯部門）】

2日目のクラシック競技144MHz帯部門では，前日とは逆に赤谷公園をスタート地点として，スタート走行コースを2方向に設けてクラスにより走行コースと探査開始地点が別けられました。ドリームセンターよりも東側にTXを配置してゲートボール場がゴール地点とされました。

▲クラシック競技144MHz帯部門　スタート!!

多少距離を取った配置でしたが，探査するには比較的容易なように，TX1からTX2，TX3の順で反時計方向に回るのが最適探査順となって，最後のTX4とTX5の両方に行くのにはどちらを先に行くか悩ませる設定でした。この2つの直線距離は400m強程度とお隣TXですが，直線で行くルートが無くて遠回りしなければならないため，選手がどんな選択をするかが設定者にとっては楽しみでした。もう一つの仕掛けはスタート位置が比較的低い場所にあり，周りの山々による反射が起きることを狙いました。スタートしてしばらく谷間を進む設定で，TX1とTX5は谷から見るとそれぞれ左右の山に設置されています。この設置は2つのTXが反射で位置の特定が難しく，そうこうしている内にTX2がどんどん強くなり方向が定まらなくて苦しんだのではないでしょうか。スタート地点は山の上の方に1，2個あるように聞こえてしまいます。何人かは牛伏山に登ってしまったようです。



▲急階段も何のその

北端のTX3は高い位置への設置でしたが，起伏の多い場所だけに信号が極端に強弱を繰り返す地形で，目前にはとても上りたいとは思わない階段を目にしたことでしょう。両日とも練りに練った設定になったのですが，「さすが全日本大会に出場される選手の方たちは，易々とこなしてすごいものだと感心しています」（JL1GDQ柴田哲審判長）

【優勝は東海地方】

さわやかな秋晴れに恵まれ，全国から多数の参加者を迎えて素晴らしい競技大会を開催することができました。大きなトラブル等もなく無事に競技を終了させていただくことができました。

地方本部対抗（JAIA賞）は常勝関東地方を破って東海地方が獲得しました。支部対抗では静岡県が優勝，

▲優勝獲得は東海地方！

愛知県が2位，高校対抗（JARD賞）は静岡県立科学技術高校が優勝していますので東海が強かったのは間違いないでしょう。東海では地方大会が各支部持ち回りで毎年開催されていますし，ARDFerによる草の根普及活動としてアウトドア競技愛好者にARDFを紹介し，定期的に開催されている練習会に誘っています。地道な活動が強さの秘密のようです。

▲表彰式の模様（個人の部）

中学校対抗（JARD賞）は茗溪学園中学（茨城県）が優勝しましたが，高校対抗優勝の科学技術高校も両日とも優勝でしたので両校とも安定した探査力があります。協賛社より賞の提供があり，ジュニア勢を中心に贈られました。株式会社キューシーキュー企画賞が，3.5MHz帯部門のW15，W19，M15，M19クラス優勝者，アイカラー iColor賞が，144MHz帯部門の地方本部対抗，中学校対抗，高校対抗優勝者でした。

▲高等学校対抗（JARD賞）受賞の皆さん

【オール関東で運営】

まずは，関東地方のベテラン競技者によって競技地域の選定と調査，地図作成，参加者受付，大会進行案作成などを進め，群馬県など関東地方各支部の協力を得て運営されました。5月にはリハーサル大会として県内で本大会と同じ競技部門とタイムスケジュールで開催し，スタッフ従事予定者も運営に加わって経験を積み上げました。大会前日（11日）にはゲートボール場内の設営，配布物の袋詰めを行い，当日は市内からの送迎車乗車案内，駐車場誘導，巡回監視などを行いました。ARDFは初めてのスタッフも多く，「アマチュア無線ジャンルの奥深さに改めて感激しました。いやー，おもしろかった！」，「いつかARDFに参加してみたいと思います」などの感想がありました。

JG2GFX種村一郎JARL参与，JI1BTL水田かおりJARL広報大使にも当日スタッフとして業務に就いてもらいました。信越地方からは長野ARDFクラブから2名のスタッフの参加があり，大会パンフレットの編集作業や印刷製本したものを寄付いただきました。

本競技大会開催にあたり，熱戦を繰り広げていただいた選手の皆様，大会運営にご支援いただきましたコアメンバーの方々，関東地方本部各都県支部の皆様，誠にありがとうございました。「限られた時間の中ではございましたが，過密なスケジュールの中，皆様のご協力をいただき，スムースな運営ができましたこと，主催者を代表して，心から感謝申し上げます」（森野大会実行委員長）。

▲閉会挨拶をする森野大会実行委員長

【特別記念局8J1ARDF】

特別記念局8J1ARDFが開設され，関東地方本部内の各支部の持ち回りで8月1日から10月31日まで精力的に運用され，延べ8,030局との交信が行われました。大会の2日間はゲートボール場に設営して153局と交信し，運用を行う選手もいました。

▽競技結果などは大会公式ページに掲載

http://www.ardf.jp/2024allja/index.html

▲8J1ARDF運用の選手たち

▲参加者の皆さん 手前側の中央左から森野大会実行委員長，小渕優子事務所斉藤所長，JAIA杉本事務局長，JARL森田会長が並ぶ